

教科等研究会（中学校英語部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して
～バックワードデザインによる授業作りをとおして～

2 研究経過

| 第1回 | 第2回 | 第3回 | |
|------------|------------|--------------|-------------|
| 期日 6月9日（金） | 期日 8月8日（火） | 期日 10月19日（木） | 期日 1月26日（金） |
| 人数 21人 | 人数 21人 | 場所 御船中学校 | 場所 嘉島中学校 |
| 場所 矢部中学校 | 場所 小坂小・御船中 | 授業者 家入和美教諭 | 授業者 末竹美歩教諭 |

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は「主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して ～バックワードデザインによる授業作りをとおして～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

① 第1回教科等研究会

組織づくりを行い、学年部会で組織を構成した。研究活動を分担し、「2学期研究授業」「3学期研究授業」「県版テスト作成委員」の3グループに学校別で分け、担当を確認した。

② 第2回教科等研究会

午前中は小坂小学校で実施された。「熊本の学び ステップアップ研修」の一環として、小学校の外国語担当の先生と合同研修会を行った。最初に県の義務教育課英語・日本語教育推進室の太田篤士指導主事による講話をいただいた。校區別に分かれて、それぞれの学校の実情や課題を話し合い、より効果的な小中連携について模索した。今回も小学校の先生方と意見を交わす機会を得て、とても有意義な研修になった。午後は御船中学校で実施され、各学年部会に分かれ、2学期以降に実施される授業研究会の指導案検討や、共通テスト対策問題の作成を行った。

③ 第3回教科等研究会

御船中学校で実施された。三人称単数現在の文（肯定文・否定文・疑問文）の形・意味を理解し、友達のことをほかの友達に知ってもらうために、調べた情報、自分の考えや気持ちを交えながら紹介文を正しく書くことを単元の目標とし、ALT のことをもっと知るために、JTE に ALT のことについて質問するという設定で授業が行われた。

④ 第4回教科等研究会

嘉島中学校で実施された。詳しくは4の実践事例に記す。

(2) 成果と課題

- なかなか難しいとされる、ICT 機器を使ったリアルタイムでの外国の中学生との交流が行われた。「比較表現を使って、台湾の中学生に町の紹介を行う」ことを単元の最終目標とし、そこへ向けて活動を展開した。
- バックワードデザインの策定について、「このプログラムが終わった時には英語でこんなことができるようになる」という明確なものをもって、毎時間の授業展開を意識するように実践を行うことができた。
- 「小中連携」について、今年度も小学校外国語活動部会との合同夏季研修会が実施できた。来年度も小中合同の研修を行いたい。
- 小中連携については、町単位や中学校区単位で実施に温度差が見られ、改善が待たれる。



4 実践事例

(1) 学習構想案

①第3回教科等研究会における本時の目標

ALT のことをもっと知るために、JTE に ALT のことについて質問することができる。

②展開

| 過程 | 時間 | 学習活動 (◇予想される生徒の姿) | 指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図,内容,方法等) |
|--|-----|---|---|
| 導入 | 12分 | 1 Greeting ①Daily Questions 天気・曜日・月・季節等 2 small talk | ○英語を学ぶ雰囲気になるように,リズムよく行う。間違いをおそれずに声に出させる。1人1人の発話量を増やす。 ○疑問詞などを黒板に掲示し、最初の発問をモニターに示しておくことで、対話がスムーズに行えるようにする。 |
| 【Today's Goal】ALT のことをもっと知るために、JTE にALT のことについて質問することができる。 | | | |
| 展開 | 33分 | 3 Oral Introduction ①教師のALTの先生の紹介を聞く。 ②内容を確認する。 ③紹介を聞いて、クリス先生についてもっと知るために質問したい内容を考える。 4 Activity 1 ①教科書P.62の朝美と海斗の会話を読む。 ②わからない語句を確認し、本文の内容を理解する。 ③2人の会話からクリス先生について、先生に質問する時に使える表現に気付く。 ④②で気付いた表現を使って、ペアでクリス先生への質問を英語で考える。 ◇doesを使うといいのかな。 ◇疑問詞や代名詞は何を使えばいいかな。 ⑤4の④で考えた質問を英語で言うてみる。 ⑥何人かの発表を聞いて、doesやwhat doesなどを使うといいことを理解し、もう一度質問を考える。 ⑦先生に質問する。 5 Activity 2 (writing) ①のActivity1で考えた質問を書く。 ②書いた質問を先生に確認してもらう。 ③確認が終わった生徒は、他の生徒のサポートをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【期待される学びの姿】 ALTの先生についてもっと知るために、質問を考え、即興で英語で質問しようとしたり、考えた質問を正しい英語で書こうとする姿。 わからない所を先生や友達に質問したり、教え合ったりして、課題を解決しようとする姿。 </div> | ○他己紹介を聞かせる際には,最初は聞く視点を与えずに行う。理解が難しい場合は聞く視点を与えて再度行う。 ○質問は内容を重視したため、ここでは日本語で考えてもよいこととする。 ○本文を聞いたり・読んだりした後に、新出語句に出会うようにする。 ○第三者についてたずねるときには、doではなく、doesが使われていることに気付かせる。 ○海斗の質問2つ、「Does he like Filipino food?」「What does he like for dessert?」の文を使って自分たちが質問したいことを英語で言うてみる。 ○中間指導を行いながら、生徒たちとのやり取りを通して正しい質問に近づいていくようにする。 ○間違いを恐れず質問する姿をしっかりと評価しつつ、正しい使い方を定着させていく。 ○4で考えた質問が正しく言えているか確認するために、全員に書かせ、確認をする。 ○机間指導を行い,スローラーナーへ指導する。 ○ICTを活用して中間指導を行う。 |
| 【まとめ】 第三者のことについて質問するときには、doesを使うこと、質問の内容(疑問詞の活用)をよく考えることでALTの事をより知り、よりよい関係を築くことができること。 | | | |

| | | | |
|----|----|---|---|
| 終末 | 5分 | 7 学習のまとめ, 振り返りを行う, 次時の確認 ①目標の達成状況をふり返る。 ◇does を使用する場面がわかった。 ◇よりその人のことを知るために、どんな質問をすればよいかわかった。 | Odoesの使い方を理解し、質問の文を正しく書くことができたか。 ○ALTの先生についてより知ることができるよう質問をし、答えを理解することができたか。 ○次時に向けての確認をする。 |
|----|----|---|---|

③第4回教科等研究会における本時の目標

フィードバックシートを使って、台湾の中学生への発表をより良くすることができる。

④展開

| 過程 | 時間 | 学習活動 (◇予想される生徒の発言・反応) | 指導上の留意事項 ★家庭学習のポイント |
|---|---------|--|--|
| か だ い を つ か む | 10 分 | 1 Understanding Today's Goal ◇台湾の中学生からのメッセージ動画を見て、単元目標に対する意欲を高める。 | 研究の視点(1) —① ・台湾の中学生からの「生の声」に触れることで、より相手意識をもって活動できるようにする。 |
| | | 2 Small Talk ◇自分の気持ちや考えを英語で伝えようとしている。 ◇○○について詳しく知りたいな。質問を試みよう。 | 研究の視点(2) —② ・ただトピックを与え、それについて言語活動を行うのではなく、今日のトピックについて「考える」時間もとるようにする。 |
| 【めあて】フィードバックシートを使って、台湾の中学生への発表をより良くしよう。 | | | |
| し っ か り 考 え る | 35 分 | 3 Activity (1)各班で発表前の練習を行う。 ◇他の班との発表に向けて、全員で合わせて練習したり、自分の担当箇所を個人で練習したりしている。 | 研究の視点(2) —② ・相手のグループの発表をただ聞くだけでなく、「意見やアドバイスを与える」という視点を与えることで、問いを持ったり、考えたりする習慣をつけていく。 |
| | | (2)班ごとにペアを作り、発表を行う。発表を聞いているグループは、その班に対しての意見やアドバイスを書く。 ◇自分の気持ちや意見を入れた方がいいのでは。 ◇もっとアイコンタクトを意識した方がいいのでは。 | 研究の視点(3) —② ・相手の班から意見やアドバイスをもらうことで、発表内容を推敲するための材料にしたり、生徒が多様な価値観に触れ、生徒が自らの見方・考え方を広げたり深めたりできるようにする。 |
| | | (3)発表中に書けなかった意見やアドバイスをワークシートに書く。 ◇スライドの文字が小さくて見えない。もう少し大きくした方がいいと思う。 | |
| | | (4)相手の班からアドバイスをもらう。 ◇自分の気持ちや意見を入れた方がいいと言われたよ。 ◇もっとアイコンタクトを意識するようにアドバイスもらったよ。 ◇スライドの文字が小さかったみたいだから、もう少し大きくしよう。 | 研究の視点(3) —② ・仲間からのアドバイスを受けて、生徒の見方・考え方を広げ、それらをアウトプットする機会とする。 |
| | | (5)クラスメイトがもらったアドバイスを全体で確認する。 | |

| | | | |
|------------------|-----------|---|--|
| | | <p>◇自分の感想を入れるといいんだな。 ◇first や second などを入れて話し方を工夫してみよう。</p> <p>(6) 自分の発表内容をより良いものに推敲する。 ◇仲間からのアドバイスをもとに、自分たちの資料や発表内容をより良いものに改善している。</p> <p>(7) クラスの中で良いものを紹介する ◇「～がよかったな」自分たちのグループでも取り入れていこう。</p> | <p>研究の視点（３）—② ・単元の目標に迫っている発表をしている班をクラス全体に共有し、生徒の見方考え方を広げていく。</p> <p>【具体の評価規準】※思① ○仲間からもらったアドバイスを活用し、再度自分たちの発表原稿や内容を振り返り、より良いものにしようと推敲している。 (ワークシート、観察、振り返りシート)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○クラスで出た意見やアドバイスをもとに、自分の発表原稿や資料を比較させる。</p> |
| <p>まとめ・ふりかえる</p> | <p>5分</p> | <p>4 学習を振り返る。</p> <p>(1) 振り返りを書く ◇自分では気づかなかったことに仲間からのアドバイスで気づくことができ、発表内容を推敲することができた。</p> | <p>研究の視点（４）—① ・「振り返りシート」に視点に沿って振り返りを行うことで、生徒が学習の達成感を味わったり、次の学習への意欲を更に高めたりできるようにする。</p> |

～研究協議による気づき～

- ・導入のビデオで意欲を高めることができた。ただし、後半のメッセージが流暢過ぎて聞き取りにくいところがあった。
- ・発表では、比較表現を用いて嘉島町の魅力を伝えることができていた。
- ・クラスルームイングリッシュが十分に活用されていた。
- ・指示が的確で分かりやすかった。
- ・指名された時に、すぐに反応、発表ができていた。
- ・フィードバックシートを英語で書いている生徒がいた点が素晴らしかった。
- ・めあてが魅力的で、生徒の学習意欲を高めるものだった。
- ・アドバイスの深まりについては、内容を深めるためにという視点を絞って示してもよかった。
- ・台湾の生徒から嘉島町の何を知りたいのかを引き出し、その質問をもとに発表原稿をつくるとさらに深まりのある取組となるだろう。